

事例1

利用者プロフィール

氏名：Aさん（43歳／男性）
居住状況：地域ホームにて1人暮らし
身体状況：知的障害、療育手帳所持
親族状況：両親ともに死別。兄も遠方にいるため
日常的な援助は得られない。



本事業利用のきっかけ

以前は、知的障害者施設に入所しており、日常的金銭管理は入所先の施設で行っていた。その後、地域ホーム入所をきっかけに、自身で金銭管理及び重要書類の管理をすることになる。地域ホームより、本人の自立のためにも、本事業を利用して金銭管理の援助をしてもらいたいと依頼があった。

援助の内容

普段利用する通帳以外の多額の預金のある通帳や証書などの重要書類については、貸金庫にて保管する。仕事は毎週木曜が休みとなるが、本人より仕事後の時間での支援希望がある。本人の意向に添うため、月1回、夕方近くに地域ホームへ行き生活費を渡し、本人と支援の確認をしている。

福祉サービス利用援助

日常的な金銭管理サービス

書類等預かりサービス

事例2

利用者プロフィール

氏名：Bさん（50歳／男性）
居住状況：病院入院中
身体状況：精神障害、精神障害者手帳所持
親族状況：妻とは離婚、息子がいるが疎遠。



本事業利用のきっかけ

本人には物忘れが見られ、預金している金融機関など生活に必要な情報を思い出せない状態。入院中は病院が金銭管理などの援助を行っていたが、退院後、在宅にて生活を始めるにあたって、病院の相談員より、今後の生活設計や日常的な金銭管理が不安であるため、本事業利用を検討したいと相談が寄せられた。

援助の内容

入院中は病室に訪問し、生活費の払い戻しと医療費の支払い等の支援を行っている。今の病状では、就労することは難しく収入の見込みがない。早急に障害年金の手続きを行なうとともに、福祉サービスの利用援助として、生活保護受給申請の援助を行う予定。今後、在宅での生活が送れるよう支援していく必要があり、精神障害者のヘルパー利用について検討している。

福祉サービス利用援助

日常的な金銭管理サービス

書類等預かりサービス